

静嘉堂文庫美術館 国宝「曜変天目」展示に有機 EL 照明パネルを採用

Lumiotech (ルミオテック) 株式会社 (社長: 重永久夫、本社: 山形県米沢市) が生産・販売する高演色性有機 EL 照明パネル (P06 シリーズ) が、静嘉堂文庫美術館 (東京都世田谷区) (<http://www.seikado.or.jp/>) 所有の国宝「曜変天目 (注 1)」の展示に採用されることが決定した。世界に三碗のみが現存する「曜変天目」(すべて国宝) の中のうち、最も鮮やかな光彩をもつとされるこの国宝は、1月22日より開催される「曜変・油滴天目 - 茶道具名品展」(注 2) において一般公開される予定。

静嘉堂文庫美術館所有の曜変天目は、光の照射によって、漆黒の釉の中、大小に連なる銀の斑紋の周囲に、藍から淡い金色までの鮮やかな光彩が現れ、茶碗の中に満天の星を見るかのような美しさを放つ。この潜在する美しい光彩を余すことなく引き出すため、世界最高レベルの演色性 (注 3) を実現し、色再現性に優れる Lumiotech の P06 シリーズが採用された。

具体的には、Lumiotech の P06 シリーズを展示照明に用いると、その高い色再現性により様々な光彩を鮮麗に見せる一方、面から照射される均一でムラのない柔らかない光により照明の映り込みが少なく、落ち着いた展示空間を創りだす。また、紫外線・赤外線の発生がなく、LED と異なり光源自体の発熱も極小であることもこの採用を後押しした。

今回の展示会においては、曜変天目に、いずれも重要文化財の「油滴天目」、野々村仁清作「色絵吉野山図茶壺」、「井戸茶碗 越後」、そして重要美術品の「井戸茶碗 金地院」を加えた計 5 点の展示に P06 シリーズが使用される。展示ケースは静嘉堂文庫美術館既存のものを使用し、天井部の蛍光灯を 97mm 角パネル 12 枚に置き換える。また、油滴天目では、床部にも 145mm 角パネル 1 枚を配置し、茶碗外側の斑文もよく見えるように配慮した。なお、照明部分の設計・製作に当たっては、株式会社マルモ (神奈川県平塚市) の協力を得た。

有機 EL パネルは、面発光で極薄・軽量であることや、紫外線・赤外線を含まないこと、さらに水銀など有害物を含まず、省エネ化による CO₂ の削減効果が見込めるなど、白熱電球、蛍光灯などの従来型光源にない優れた特長を持ち、次世代の照明用光源として期待されている。

有機 EL 照明の導入によるメリット

- ・ 展示物の繊細な色を忠実に再現する
- ・ 展示物への照明の映り込みが少ない
- ・ 展示物が繊維や紙などの場合、展示物の損傷 (退色・変質など) が従来光源に比べ少なく抑えられる (注 4)
(紫外線を含まず、さらに可視光の中に含まれる「損傷を与える波長成分」も少ないため)
- ・ 展示物の熱・温度変化による影響が、従来光源に比べ少なく抑えられる (赤外線を含まず放射熱がないこと、さらに光源自体の発熱も極小であるため)
- ・ 柔らかない光なので、視界に入っても気にならず、床部でも使用できる
- ・ 極薄でスペースを取らず、また軽量であるため、既存の展示ケースの光源の置き換えも簡単に行える



(注 1) 曜変天目は、黒釉茶碗の内面に現れた大小の斑紋の周囲に、光彩 (虹彩) が現れているものをいう。中国南宋時代に、多数焼成された建盞 (福建省建盞の茶碗) のうち、曜変は極めて稀な所産であったと見られる。静嘉堂の一碗は、徳川家三代将軍家光からその乳母春日局に下賜され、後に春日局からもと嫁ぎ先であり、実子の継ぐ淀藩主稲葉家に渡されて代々秘蔵されたもので「稲葉天目」とも称されている。

(注 2) 静嘉堂文庫創設 120 周年・美術館開館 20 周年記念 受け継がれる東洋の至宝 Part III 曜変・油滴 - 茶道具名品展 1月22日 (火) より 3月24日 (日) まで開催 (除、2/11 を除く月曜日、2/12)

(注 3) Lumiotech 調べ

(注 4) 米国商務省標準局の損傷係数で比較。損傷係数は、色紙の変退色の程度を数値化したもので、この値が小さい光源ほど展示物の影響が少なくなる。市販されている美術館・博物館用蛍光灯 (昼白色) の損傷係数 0.012 に対し、P06 シリーズの係数は 0.008 (Lumiotech 調べ)。

【問合せ先】

Lumiotech株式会社東京事務所

TEL : 03-5418-6035 / E-mail : lumiotech_info@lumiotech.com

以上